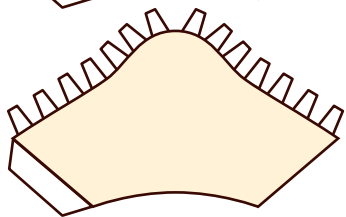
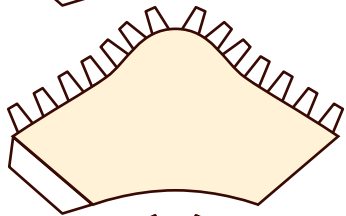
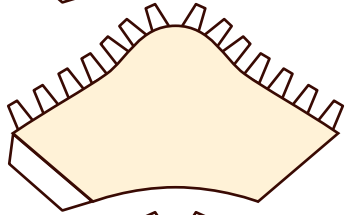
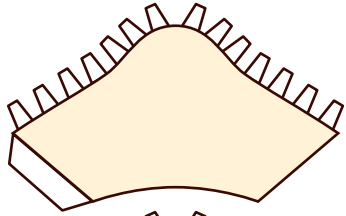


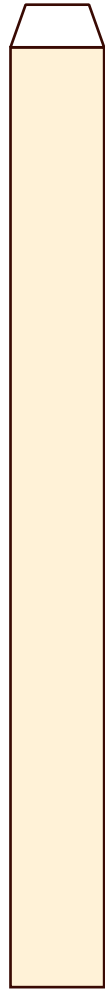


万世の蚊やりふた

やまお
山折り -----
たにお
谷折り -----

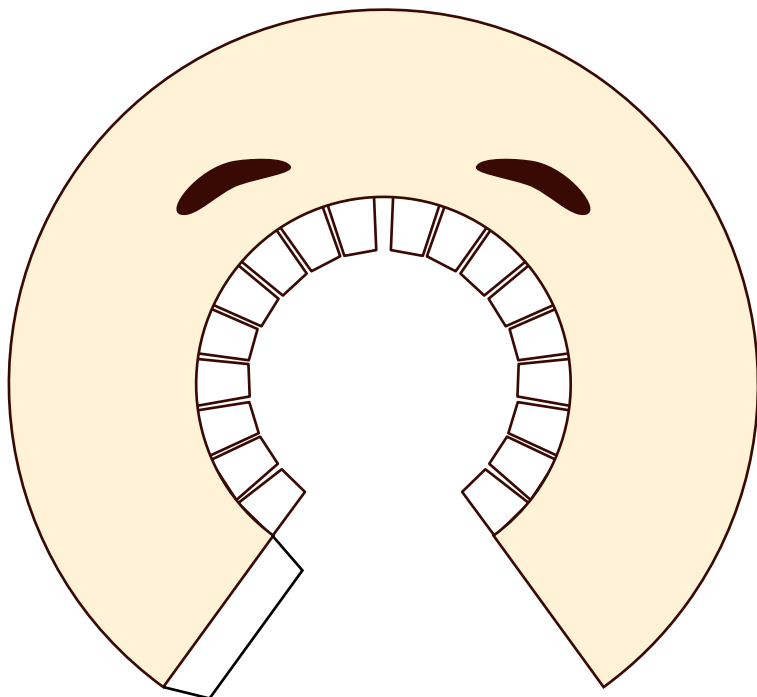
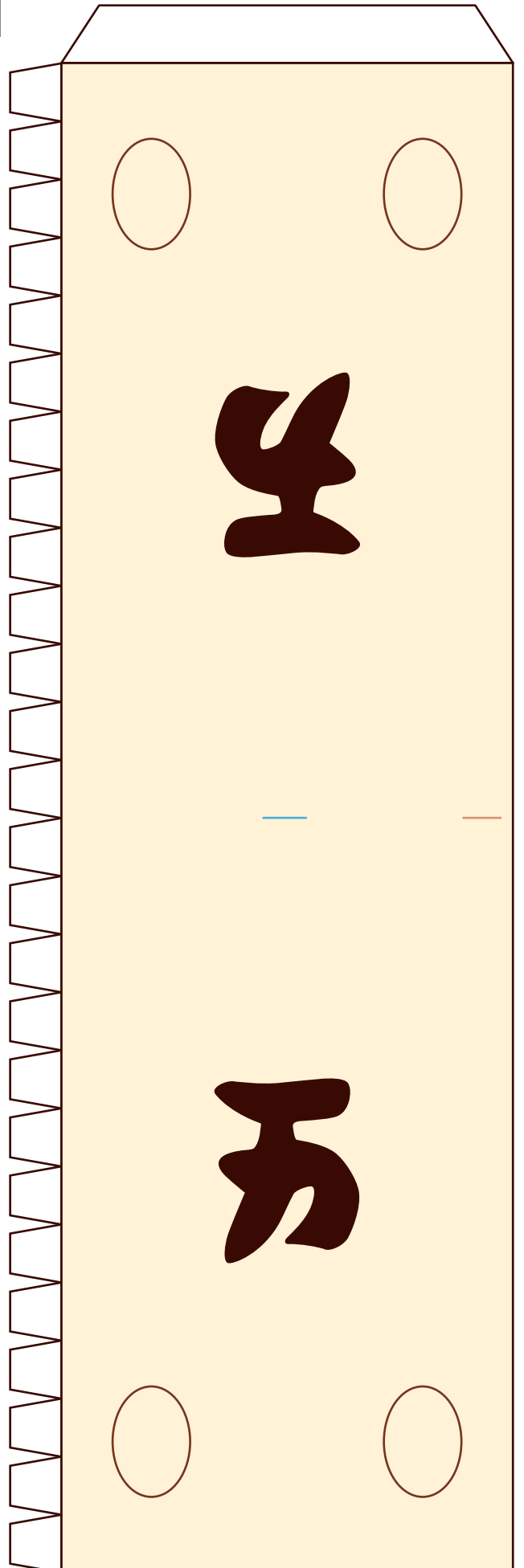


あし



くち

どうたい



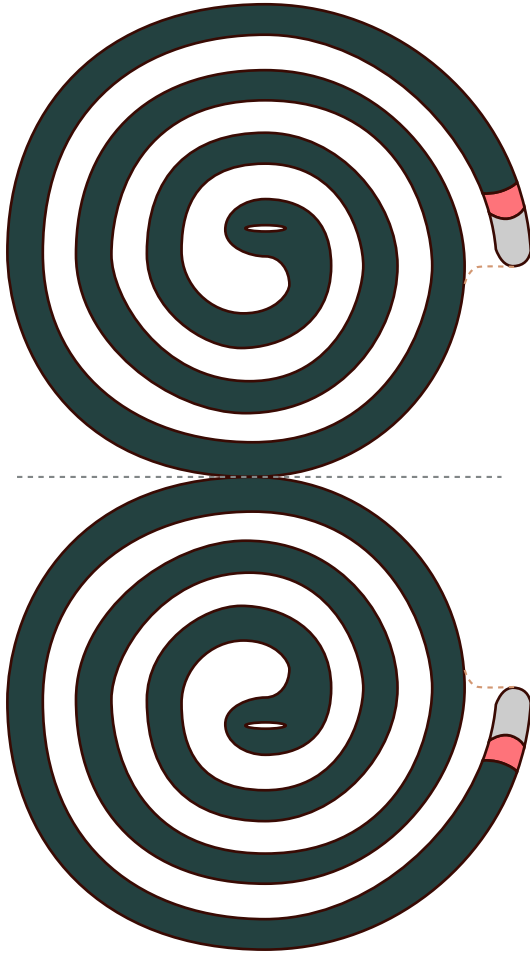
かお



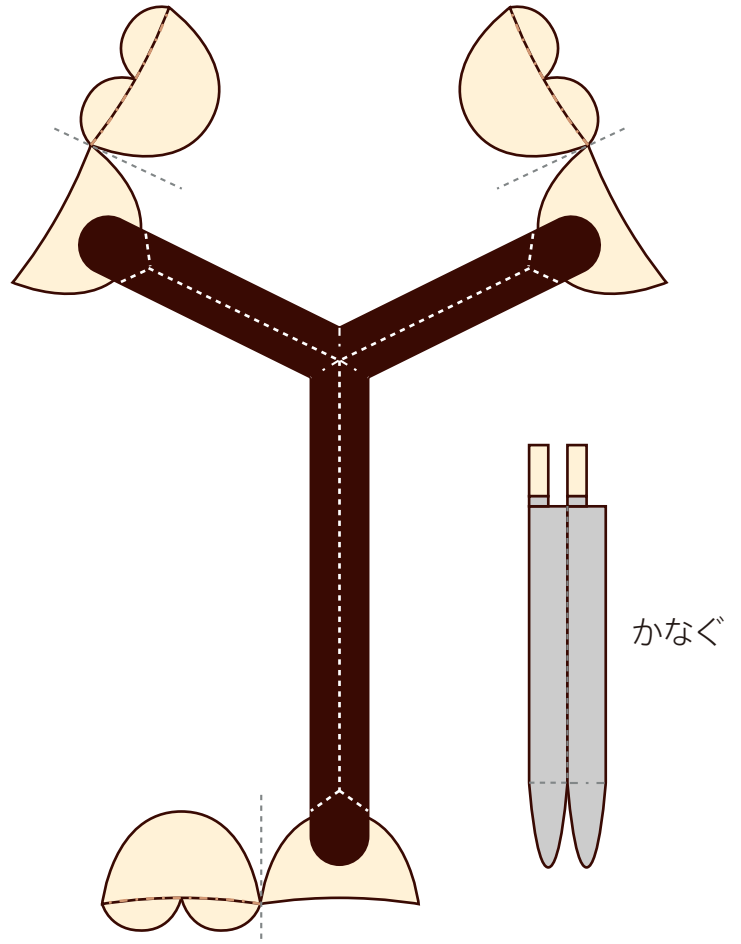
五世の蚊やりぶた^か

やまお
山折り -----
たにお
谷折り -----

か ^{せんこう}
蚊とり線香



と ^て
取っ手



ちゅうい：これは紙ですから、ぜったいに火をつけないでください。

蚊やりぶた^か豆知識^{まめ ちしき}

◆蚊やりぶたとは・・・蚊（か）とり線香（せんこう）をたく器（うつわ）を「蚊（か）やり」といいます。その中で、ぶたのかたちをしたものを「蚊（か）やりぶた」とよびます。

蚊（か）とり線香（せんこう）は、明治時代（めいじじだい）に、ドイツやアメリカから原料（げんりょう）の除虫菊（じょちゅうぎく）が輸入（ゆにゅう）され、うずまき形（がた）のものが発明（はつめい）されました。

それより前（まえ）の江戸時代（えどじだい）には土管（どかん）のなかで松（まつ）や杉（すぎ）などの葉（は）をいぶして、その煙（けむり）を虫（むし）よけにつかっていたようです。煙（けむり）のでかたを調節（ちょうせつ）するため、土管（どかん）のくちを細（ほそ）くしたりしているうちに、ぶたの形（かたち）になっていったようです。